



平成 26 年 5 月 1 日

各 位

会 社 名 夢展望株式会社
代表者名 代表取締役社長 岡 隆宏
(コード：3185、東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理部長 阪田 貴郁
(TEL. 072-761-9293)

在庫商品の評価による営業損失及び連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 26 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）において、営業損失(商品評価損)を計上しました。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 25 年 11 月 14 日に公表いたしました平成 26 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想及び通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 営業損失の内容

平成 26 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間において、秋冬衣料販売の不振により在庫高が膨らんだ結果、在庫商品に対して商品評価損 89 百万円を売上原価に計上しました。

2. 平成 26 年 9 月期第 2 四半期連結業績予想数値の修正（平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 | 1 株 当 たり 当 期 純 利 益 |
|---|-----------|----------|----------|-----------|-----------------------|
| 前回発表予想（A） | 4,501 百万円 | 76 百万円 | 55 百万円 | 52 百万円 | 37 円 09 銭 |
| 今回修正予想（B） | 3,847 百万円 | △131 百万円 | △153 百万円 | △212 百万円 | △146 円 69 銭 |
| 増 減 額（B－A） | △654 百万円 | △207 百万円 | △209 百万円 | △264 百万円 | — |
| 増 減 率（ % ） | △14.5% | -% | -% | -% | — |
| （ご参考）前期連結実績 （平成 25 年 9 月期第 2 四半期） | 3,680 百万円 | 227 百万円 | 209 百万円 | 126 百万円 | 121 円 35 銭 |

3. 平成26年9月期通期連結業績予想数値の修正（平成25年10月1日～平成26年9月30日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|---------------------------|----------|---------|---------|---------|----------------|
| 前回発表予想（A） | 8,356百万円 | 118百万円 | 75百万円 | 30百万円 | 21円52銭 |
| 今回修正予想（B） | 7,647百万円 | △441百万円 | △482百万円 | △568百万円 | △392円09銭 |
| 増減額（B－A） | △709百万円 | △559百万円 | △557百万円 | △598百万円 | － |
| 増減率（％） | △8.5% | －％ | －％ | －％ | － |
| （ご参考）前期連結実績 （平成25年9月期） | 6,764百万円 | 167百万円 | 106百万円 | 74百万円 | 66円07銭 |

4. 修正の理由

当社グループが属するアパレル小売業界におきましては、本格的な景気回復への期待感から一部に消費回復傾向は見られるものの限定的であり、また、円安による原材料価格の高騰に加え、天候不順も相まって厳しい経営環境となりました。

さらに、幅広い年代を顧客層とする大型ベーシックブランドや外資系ファストファッションの好調に押され、当社基幹事業である若年層向けの低価格レディース業態は苦戦を強いられており、秋冬物衣料の販売が想定を下回る結果となりました。

また、秋冬衣料販売の不振により在庫商品が膨らみ、売上原価に商品評価損 89 百万円を計上しました。このことにより売上総利益率が低下しております。

上記のような状況から、平成25年11月14日に提出いたしました平成26年9月期第2四半期連結累計期間の業績予想の数値を下記のとおり修正いたします。

売上高につきましては、低価格レディース業態の不調などから、前回予想を 654 百万円下回る 3,847 百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、売上不振に加え、秋冬衣料販売の不振から在庫高が膨らんだ結果、倉庫費用の増加、在庫商品の商品評価損の発生なども併せて、前回予想を 207 百万円下回る、△131 百万円の損失となる見込みです。

また、特別損失として、子会社解散に関連して、事業整理損失引当金繰入額を計上しております。

上記を主要因として、経常利益、当期純利益は、それぞれ前回予想を 208 百万円、264 百万円下回る、△153 百万円、△212 百万円の損失となる見込みであります。

上記のような状況に対応すべく、付加価値の高いブランドの開発を進めておりますが、新たなブランドの立上げが今期第2四半期末頃、または下半期以降となるため、本格的に売上に貢献するのは来期以降となる見込みであり、若年層向けの低価格レディース業態の不調に鑑み、平成26年9月期通期連結業績予想の数値も修正いたしました。

5. 今後の対策

今後は、若年層向けの低価格レディース業態だけでなく、収益機会を拡大するために、既に展開している30代向けの高単価ブランドや予備軍である女子小学生向けブランドなど顧客年齢層の拡大、及び、今後展開するギャル系以外の様々なブランドを立上げるにより既存顧客層の拡大を図り、トレンドの変化の中でも安定した成長を維持できるよう、積極的なマルチブランド化を進めます。

さらに、既存顧客と親和性の高い美容健康商品や雑貨などの周辺商品の企画販売も展開し、顧客深耕を進めることにより顧客当たり売上を向上させていきます。

また、百貨店や、大型商業施設などの実店舗の活用、他社ECモールへの出店を進めており、チャンネルの多様化を図るオムニチャンネル戦略を着実に展開し、ネット通販への強い誘導を生み出します。これにより継続的な規模の拡大を図れるよう積極的な経営改革を進めてまいります。この方針転換により、自社のネット店舗に限定してきた既存の経営方針に比して大幅に顧客との接点を増加させることができ、マルチブランド化と相まって、継続的な顧客層の拡大を目指して参ります。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上